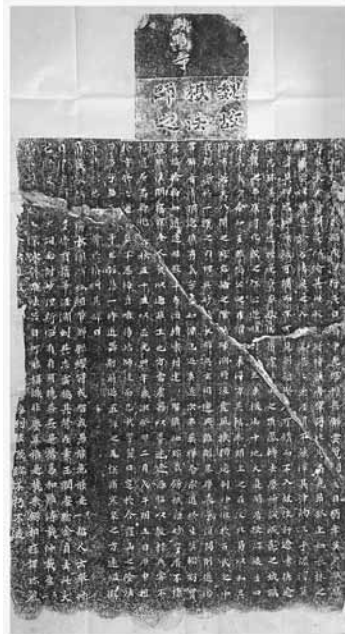


發風機獨遠判冲  
遠興難則衆席裘  
次弗奕禪念求道  
聖願抽跡裁飭祇  
器以導迷途憑悟

# 「落ち穂拾い記」 馬鳴寺根法師碑

57

図版①



図版②



図版③



図版④



図版⑤



大学在学中の頃は、書道科で年に一度、全学年の科生による科展が学内で開催された。学習成果を示し、相互研鑽を積むための機会であった。こうした機会に『馬鳴寺根法師碑』を選び、全紙で臨書した作品を出したことがある。授業クラブで高貞碑を学んでいた頃で、同時代の珍しい六朝碑を書道全集などで探し、その力強さに惹かれた。字形もやや安定し、側筆気味の雄強な点画に魅力を感じた。楊守敬や康有為なども北魏碑刻の優品の一として高く評価している。その後、書作よりも書道史の資料に興味をわき、戦前の影印本や拓本などに手を染めていった。この馬鳴寺根法師碑も整拓を手にして、その大きさ、碑額の文字等を改めて確認し、縮印の整拓資料と原拓整本(図版①)とは、相当に異なる印象を抱いた。近拓の整拓本でも原碑に対するような臨場感を示していた。高さ150cm余りの小型の碑で、北魏時代の正光4年(523)の刻である。以前、山東省の石刻芸術博物館の中庭にある建物の脇に、雨を避けるように壁に寄せて建てられているのを見た記憶がある。現在は、重要な石碑として山東省博物館に移され、展示されている(図版②)。古い写真では、石碑の斜めに走る断裂痕がそのまま見えるが、省の博物館に移されてからは、碑面が少し補修されたのか、写真で見ると少し断裂痕の趣が異なる。碑の上部(図版③)は、三角状に、その先端に縦に、楷書で「馬鳴寺」の三字(図版④)が、その下に横長の長方形の中に、伸びやかで躍動感ある趣の書風で「魏故根法師之」(図版⑤)と陽刻で刻されている。左側が更に2文字分ほど空いた所に、建立当時は碑の字などが刻されていたのであろうか。陽刻なので簡単に削られたらその痕跡はのこらないかもしれない。それとも風化したのか。疑問を感じさせる碑額である。本文は21行、一行30字、上部は風化がややあるが、中央から下方は、字画をやや鮮明に見る事が出来る。断裂痕にかかる文字が十数字失われて見る事が出来ない。起筆は筆先が明確に示され、字画がやや太めに鋭く、転折も明確に返し、縦画もスピード感ある筆勢を示す。文字の結構は安定し、重厚感のある魅力的な六朝楷書である。

伊藤滋(書齋名・木鷄室)

# 書のひろば

理事長 下谷洋子

## 墨魂のレジェンド浜谷芳仙遺墨展 浜谷芳仙先生を偲ぶ会開催

8月2日～4日、富山高岡文化ホールにて、昨年ご逝去された浜谷芳仙先生の遺墨展が開かれました。

臨書作品から多様な前衛書の大作まで20数点の作品が陳列され、改めて先生の前衛書に生涯を懸けて向き合った熱い想いに気づかされました。

会場の中央には、先生が日頃書かれた臨書の折帖や日記的な小品が多々並び、先生の前衛書の背景にはその日常の蓄積があったからと強く印象付けられました。



浜谷先生の深い研究の様子が窺えた展示

8月3日午後4時よりホテルニューオータニ高岡にて偲ぶ会が催され、本院からも多数の前衛書部の先生の参加を得て、盛大に和やかに先生を偲ぶことができました。

あわせて第64回書径舎展も開かれましたが、書径舎の皆さんの今後益々のご研鑽、ご発展を祈念します。

## 第57回書道芸術院単位認定講習会 倉敷市環境交流スクエア 水島愛あいサロンにて開催

8月18日、山陽支局にとっては計画してから実に5年目にして、本院の単位認定講習会が開催されました。

今回は、これまでの単位認定講習会を見直す案が理事会で了承されてから、初めての講習会となりました。従来の、一泊して一日半で全部門を学習する形式から変更し、4科目のみにした日帰りの講習会です。会場の関係もあり、この倉敷会場は本院西地域の方々が対象になっています。10月には東京会場で東の方々を対象に受講者を振り分けた形で、同じ内容を行います。

科目は、かな・漢字・現代詩文書の実技・院史を中心に、篆刻、前衛は院史の中でのレクチャーです。詳細な報告は来月号に掲載しますが、受講者約100人、1日のみという忙しいスケジュールの中、基本を中心にした講師陣を前に初めての参加者が多かったこともあり、真剣に取り組む姿が新鮮でした。山陽支局の先生方には、長期にわたり大変お世話になり、本当にありがとうございました。

科目は、かな・漢字・現代詩文書の実技・院史を中心に、篆刻、前衛は院史の中でのレクチャーです。詳細な報告は来月号に掲載しますが、受講者約100人、1日のみという忙しいスケジュールの中、基本を中心にした講師陣を前に初めての参加者が多かったこともあ

り、真剣に取り組む姿が新鮮でした。山陽支局の先生方には、長期にわたり大変お世話になり、本当にありがとうございました。



応援の役員も加わり、開講式

## 書道芸術院秋季展 公募選考・選抜作家・前衛書展他 作品確認など実施

本院の秋季展は、8月6日(火)に公財役員を含む選抜作家118点の作品確認を行いました。

続いて同月22日(木)に、理事長・常務理事他1名の審査員により公募作品の審査を行い、「秋季菊花賞」10名、「俊英賞」40名を決定しました。5部門の応募数は計296点172人、昨年とほぼ同じでした。

今年は10月12日(土)に昨年同様紙パルプ会館3階の会議室にて表彰式と、併催の前衛作家展の大作出品者を中心にした研究会を行い、終了後2階において懇親会を予定しています。入賞者

は左記の通りです。

### ・秋季菊花賞(10名)

漢字 新井 春麗 日比 康貴  
古川 彩逕 宮崎 春泉

かな 菅原 澤花 笹木 蒼風

現詩 甲谷 鳳梨 西條 松雲

前衛 木暮 美紀

### ・秋季俊英賞(40名)

漢字 阿瀧浜里佳 阿部 雅悠  
荻田 良風 小澤 明泉

金子 美千 金延 憲市

紺野 遊山 坂井 白萩

佐茂 明祥 下元 真世

谷 香来 中嶋佐緒里

新村 翠芳 樋口 玉葉

三浦 英樹 山田 征孝

加藤 万丈 小暮真紀子

逸見 玲子 上野 千瑠

伊藤 四夏 下津 舟楓

木村 順峰 中島 俊恵

千葉 桂貴 舟賢 恵美

藤井 花香

吉田 紫風

蛇森 美風

赤羽根えり奈

遠藤 和香 新井 虹雪

佐藤 糾舫 工藤 史音

竹内 成美 関谷 明美

中島 正美 鶴淵 亜希

藤田 香園 廣田 紫

# 漢字書基礎基本講座 (4)

種谷萬城

## 楷書2 牛檜造像記

河南省洛陽の南郊外十キロ、伊水の兩岸に対峙する龍門山には多くの石窟寺院があり(西山に28洞、東山に7洞)、その内外に9万7千余を数える大小仏龕造像が刻されています。これらの仏像に、発願の由来を示す語を刻し添えたものが造像記です。現在、文字を識別し得るものは、3千種を数え、その中から特に優れたものを選び四品、十品、二十品と呼び、牛檜造像記は龍門二十品の一つです。

刀で刻み込んだ、力強く角張った方勢の切れ味鋭い書風は、北魏時代の楷書の一つの典型を示しています。

臨書にあたっては、

- 1、牛檜造像記の線の表情をじっくり鑑賞し、その迫力に溢れる書の趣に同調し、まずは、気力溢れる心構えを持つことが大切。
- 2、筆は毛質の硬いもの(馬毛などの剛毛筆)を使う。
- 3、墨は濃墨。墨量は少なめ。
- 4、双鉤法で執筆し、腕法は懸腕法。
- 5、露鋒。側筆。起筆は鋭く、送筆は速めに、収筆は力強く。切れ味の良い線を引く。
- 6、字形は懐ろ広く、直勢で、がっちりとした強固な構えにする。気魄を筆に込め、牛檜造像記を臨書(古典を手本にして書く)・倣書(古典の書風で別の語句を書く)し、心の昂りを喚起して下さい。ユーチューブ『筆のサロン』に臨書と倣書の関連動画を配信しました。是非参考にご覧ください。左のQRコードでアクセスできます。



(原本)

石造

(臨書)

迫力

(倣書)



筆のサロン  
QRコード

## 基礎基本講座

# 篆刻・刻字基礎基本講座 (4)

後藤大峰

篆刻は以前お話し致した字法、章法、そして、実際に印材に刻する手段というか、方法としての、刀法が挙げられます。

印刀をどのように印材に当てるか？

正確に彫るには？

一番、彫り易い印刀の当て方は？

古来の印人達も現代の我々以上に試行錯誤されたのではと思います。

一般的にオーソドックスな印刀の持ち方は、いわゆる、筆を持つ方法である「双鉤法」「単鉤法」と同じで、篆刻では主に「双鉤法」を用います。(図1)です。

もう一つの方法として、「握刀法」があります。

これは手に非常に力を込めて刻する刀法で、ダイナミックな線が必要とする時や、いわゆる、荒取りを必要とする時などに使います。(図2)

筆者などは主に、「握刀法」で大体の線を彫り、「双鉤法」で細かい線を彫っていくのが常々の作品削りの手段です。

皆様も色々試してみてご自身に合った刀の持ち方を模索してみてください。

次回からは、以前、お話し致した字法、章法と今回の刀法を踏まえた上で実際の「篆刻の習得方法」を、お話ししてみたいと思います。

(図1)



(図2)



# 書道芸術院

## 令和の群像 (2024)



### 都倉むつみ

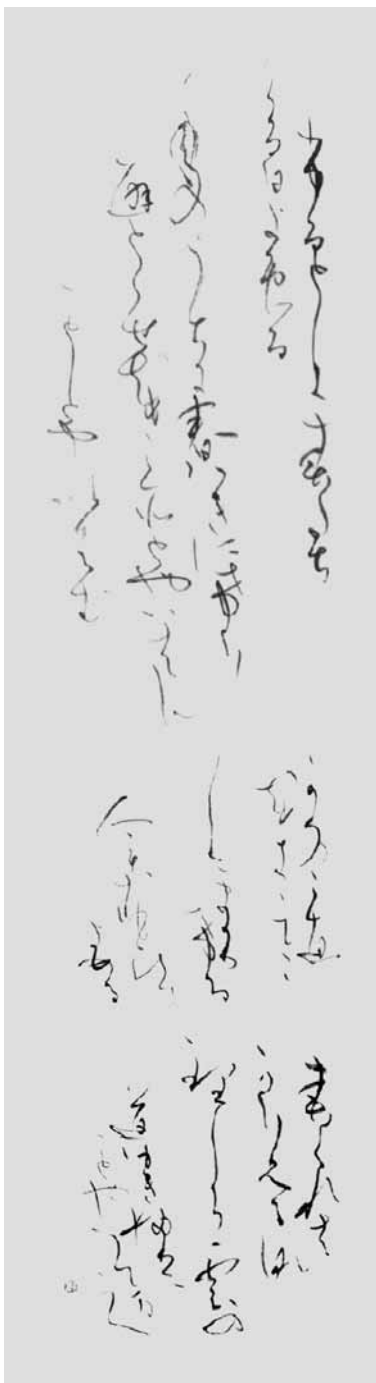
#### 「やさえられて」

書道との出会いは5歳の時でした。私は呉服屋の娘として生まれ、書道の先生がお得意様であったため、家族や従業員全員で習い始めました。競書で写真版になることが嬉しく、みんなが辞めてしまった後も、母と私だけは続けました。しかし、その先生が書をお辞めになり、19歳の時に呉服屋のお得意様だった田村澄子先生に教えていただくことになりました。商店街の花屋や

家具屋の奥様、当時のお客様など大勢で賑やかに教えていただいたのを覚えています。そこで初めてかな書道を知り、田村先生の作品の素晴らしさに感動し圧倒されました。「かなはアンバランスに書いてバランスを取るのよ。」「一字一字よりも景色を書きなさい。」「完成なんて一生ないのよ。」「今でも書いていると、先生が横で教えてくださる声がかえってくる気がします。その後、結婚し、ダウン症の息子と2人の娘を育てながら、田村先生と母のおかげでなんとか書が続けてきました。書道教室を主催し、子どもたちに書を教える楽しさ

を知りました。しかし教室を始めて10年目、今度は母が認知症になり、次の年の2018年の大みそかに同居の兄が急逝し、2020年に呉服屋をたたむことになりました。母と長男の介護、兄の死後の整理、お店の片付けと、怒涛の日々が始まりました。要領の悪い私には書道教室を続ける余裕がありませんでした。

ここまで育ててくださった玉松会や芸術院の先生方には、迷惑をかけてばかりで、申し訳ない気持ちでいっぱいです。石井明子先生にご指導いただき、玉松会や芸術院の諸先輩方のおかげで、細々と続けさせていただけに本当に感謝しています。全身全霊で書に向き合っている先生方を心より尊敬しています。私もまたいつか教室を開き子どもたちに書道の素晴らしさを伝え、少しでも恩返しができるらと思っています。



2024年第57回玉松会書展「ふるとしに」

都倉むつみ書



# 特集 第75回毎日書道展

国立新美術館 7月10日(水)～8月4日(日)  
 東京都美術館 7月18日(木)～7月24日(水)

## 第75回毎日書道展総評

下谷 洋子

日本最大と言われる毎日書道展は75回を迎え、昨年同様、搬入から鑑別・審査、表彰式と、滞りなく行われた。出品点数は年々減少気味だが、今年は記念展ということもあって入賞率も上がり来観者は大幅に増加したとのことだった。

また、国立新美術館では特別展示「墨魂の群像―毎日の書48人―」が開催され、本院からは加藤翠柳・種谷扇舟・恩地春洋・村野大仙先生の懐かしい書が並んだ。実行委員長の辻元大雲先生他48人の関係者の先生方によるギャラリートークも盛況を呈した。

実行委員長・室井玄峰  
 審査部長・薄田東仙  
 総務部長・渡辺美明  
 陳列部長・大森 哲  
 ○運営委員(本院関係)

川島舟錦(大字) 北村白琉(前衛)

各当番審査員、会員賞選考委員他は、既報の通り。

全出品者を対象とする文部科学大臣賞には近代詩文書部の金子大蔵氏が50歳の若さで受賞した。本院の会員賞は漢字部・西川翠嵐氏、かな部・見越雪枝氏、近代詩文書部・鈴木英晴氏、大字書部・浜口瑞香氏、前衛書部・一條紅蕭氏の5名が受賞し、過去最高の人数であった。(その他毎日賞以下については別途記載)

東京展国立新美術館は7月10日～8月4日、前期後期各Ⅰ/Ⅱ期、計4回の陳列替えで行われ、東京都美術館は7月18日～24日まで、理事・監事の2作目と東京展関係入選作、書の甲子園入賞作品が展示された。

今回の会員賞受賞者の中から7月27日、国立新美術館内特設会場で席上揮毫会が行われた。本院からは、見越・鈴木・一條の3名が、堂々とした揮毫を見せた。

東京展以降は、全国の9会場にて地方展が開催されるが、北陸展は、今回

が最後となる予定。

各地方の会員のご支援ご協力をお願いします。

- ・ 関西展 8月28日～9月1日 京都市セラ美術館他
  - ・ 北陸展 8月18日～22日 富山県民会館
  - ・ 東海展 8月20日～25日 愛知県美術館ギャラリートーク
  - ・ 中国展 8月20日～25日 広島県立美術館
  - ・ 四国展 8月21日～25日 愛媛県美術館
  - ・ 東北仙臺 9月20日～25日 せんだいメディアアテーク
  - ・ 北海道展 9月25日～29日 札幌市民ギャラリー他
  - ・ 臺北形展 10月16日～20日 山形美術館
  - ・ 九州展 11月12日～17日 大分県立美術館
- 各地方展では新たに顕彰式や揮毫会、祝賀会など各種催しが企画される。

なお、毎日の審査会員以上を対象に、この75回展の出品作によって年明けの「現代の書 新春展」のセントラルミュージアム銀座会場の出品者が選考された。

会期2025年1月4日～9日 (本院関係)

- セイコーハウス銀座ホール展(役員)
- 下谷洋子、小竹石雲
- セントラル会場100人展
- 石井明子、大辻多希子、勝山初美、大平邑峰、坂本素雪、武山櫻子、石田春窓、太田蓮紅、千葉蒼玄の各氏。



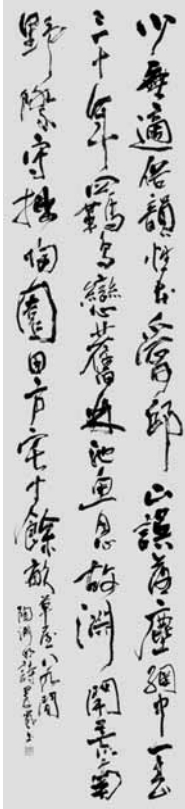
毎日書道展会員賞(副賞) 硯屏「起筆の一筆」(宮瀬富之 作)

会員賞



西川 翠 嵐  
(漢字部)

毎日書道展、それは「あこがれ」であり、パリで開催されたオリンピックのごとく「参加する事に意義がある」存在、入選できただけで仲間と喜び合いました。それが2度の毎日賞を経て会員に推挙頂き、今回夢にも思っていなかった会員賞を頂く事ができました。大学でOBでもあった笹本扇城先生に楷書六法を手解き頂き、郷里で西林乘宣先生のご指導を仰ぐようになって41年、県展・芸術院展・毎日展に挑戦する日々でした。楷・行・草・篆・隸五体・篆刻にも取り組めたのは、表現の幅を広げることを厳しく求められた西林先生のご指導の賜です。今回作は、当初、杜甫の五律で一旦は印も押しましたがどうも納得できず、「もう一度初めからやり直してみますか」との師の言葉に詩を替え、やっと仕上がったものでした。たくさんの出会い・仲間との学び・そして下谷理事長はじめ先生方のお導きに心より感謝いたします。



漢字部 西川 翠 嵐

会員賞



見越 雪 枝  
(かな部)

この度、第75回毎日書道展において会員賞を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。身の引き締まる思いであります。これまで、書道芸術院の多くの先生方、玉松会の皆様、書友、お仲間を支えられた歲月でありました。感謝でいっぱいです。今回の制作に当たっては、紙、筆、墨は勿論のこと、その日の気候、心(情感)が一体となった気がします。そして書を好きになろう、楽しく書こうという気持ち自然に表に出た結果だと思えます。亡師、高橋松延先生も喜んで下さっていると思います。高齢の父にも報告できたことに感謝しています。これからも微力ながら力を尽くしていきたいと存じます。今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございます。



かな部 見越 雪 枝

会員賞



鈴木英晴  
(近代詩文書部)

第75回の記念すべき年に毎日書道展  
会員賞を賜りましたことに感謝申し上  
げます。坂本素

雪先生、小野寺  
逢仙先生、書道  
芸術院および宮  
城野書人会の先  
生方、伊呂波書  
の会をはじめと  
する多くの書友  
の皆様のお顔が  
浮かんでまいり  
ました。皆様の  
ご指導があつて



近代詩文書部 鈴木英晴

のことと心より御礼申し上げます。

いつも趣味の山行を題材にしており  
ますが、今回も真夏の過酷な環境で生  
育する南アルプスのハイマツを表現し  
ました。迫力ある作品にと何度も青森  
に足を運び、坂本先生や書友の皆さん  
にアドバイスをいただいた作品です。ま  
ずは実用書と習い始めたものですが、  
今回このような賞をいただくことにな  
ろうとは思いませんでした。

今後も「書道芸術」への競書出品を  
続け、日頃の鍛錬を忘れることなく、  
書道の発展に微力ながら尽くしてい  
りたいと思いますので、変わらぬご指  
導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

会員賞



浜口瑞香  
(大字書部)

この度は、光栄にも第75回毎日書道  
展会員賞を賜り心よりお礼申し上げま  
す。過分な賞

の重さをひし  
ひしと感じ、  
身の引き締ま  
る思いをして  
おります。こ  
れも書道芸術  
院の先生方の  
幅広いご指導  
や、40年余り  
ご指導いただ  
いている大野



大字書部 浜口瑞香

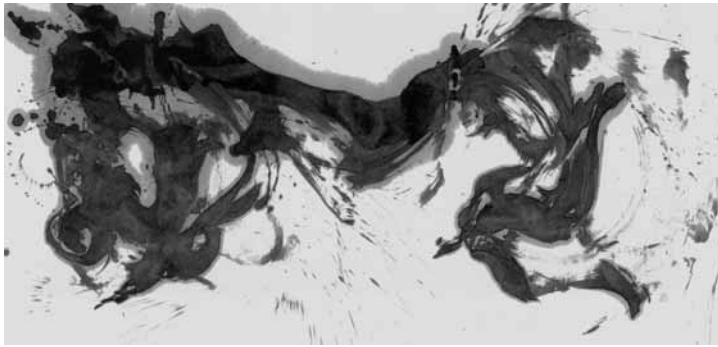
祥雲先生、川島舟錦先生や書友の方々  
のお蔭と感謝しております。

今回選んだ字は「静」。静やかな世  
になるようお願いを込めて書きました。  
作意もなく自然に筆が動いた、不思議  
な感覚を今でも覚えています。「常々  
努力を重ねておれば、ふとした時に作  
品は生まれる。」師の言葉通りでした。  
書とともに歩んだ70余年、転居で苦  
しみながらも続けてきた結果が、今回  
の幸運に繋がりました。

今後も、微力ながら体力の許す限り  
研鑽を積んでいく所存です。どうか、  
よろしくご指導のほどお願い致します。



会  
員  
賞



前衛書部 一條紅蕭



一條紅蕭  
(前衛書部)

この度は会員賞という身に余る賞を頂戴し、誠にありがとうございます。半世紀の間、休むことなく書を書き続けたのは、高校時代から授業と部活で指導を受けた師の太田蓮紅先生のお陰とおもっています。進学や結婚などで生活が変化し、ややもすれば書との縁が切れそうな時も、その都度、細やかな心配りと励ましで私をここまで導いて下さりました。さらには社中をはじめ、書を志す仲間の方々の支えがあつてこそこの受賞と心より感謝申し上げます。

受賞作「波折り」は、飛沫と渴筆で波の勢いを、そして墨溜りと淡墨の滲みで、幾重にも寄せる波を表現した作品です。

まだまだ未熟で手探りでの書作ですが、皆様のご指導を賜りながら研鑽を積み重ねてまいりたいと思っております。今後とも、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

第75回展書道芸術院出品数 (公募・会友)

書道芸術院	漢字		かな		近代 詩文書	大字書	篆刻	刻字	前衛書	合計
	I	II	I	II						
本年度	167	190	102	131	387	171	0	24	337	1,509
74回展	193	181	109	139	416	183	0	40	359	1,620
増減	-26	9	-7	-8	-29	-12	0	-16	-22	-111

第75回展書道芸術院受賞者数

賞名	漢字		かな		近代 詩文書	大字書	篆刻	刻字	前衛書	合計
	I	II	I	II						
会 員 賞	1		1		1	1			1	5
毎 日 賞	1	2		2	3	1			3	12
秀 作 賞	1	5	2	2	6	4			3	23
佳 作 賞	7	5	2	6	13	7		1	12	53
U23毎日賞	1									1
U23新鋭賞				1					1	2
U23奨励賞				1	1	1				3
合 計	11	12	4	13	24	14		1	20	99

毎日賞



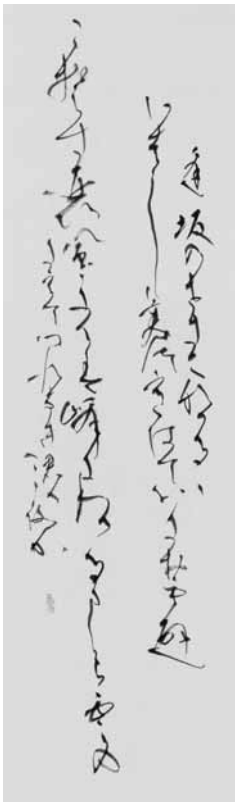
漢字部Ⅱ類 小林舟驪



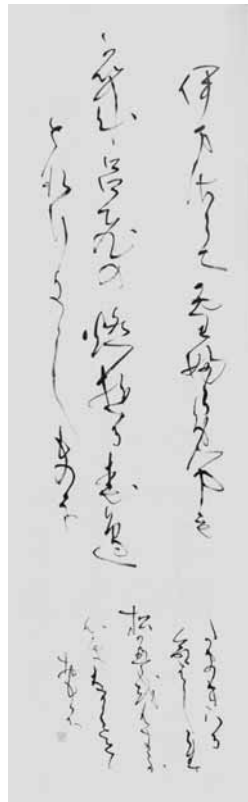
漢字部Ⅱ類 市川将義



漢字部Ⅰ類 田島林染



かな部Ⅱ類 熊谷翔



かな部Ⅱ類 木村関泉

毎日賞



近代詩文書部 大友四峰



近代詩文書部 山内松吾



近代詩文書部 人見華泉

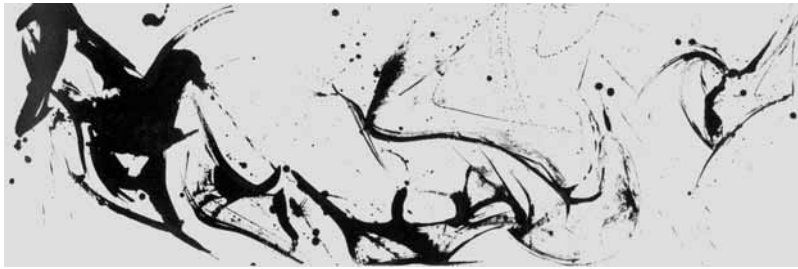


前衛書部 阿部俊吾

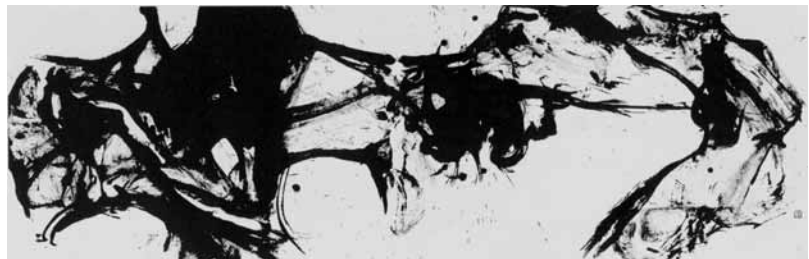


大字書部 保原美風

毎日賞



前衛書部 栗原りか



前衛書部 中塩朱華

U 23 毎日賞



漢字部I類 都丸花風



毎日賞 (副賞)  
筆筒「起筆の一跡」  
(宮瀬富之 監修)



秀作賞 (副賞) 文鎮「筆跡」  
(宮瀬富之 監修)



佳作賞 (副賞) 筆置「波おき」  
(宮瀬富之 監修)

秀作賞受賞者

佳作賞受賞者

・漢字部 (I類)

徳岡翠江

・漢字部 (II類)

池田箏紗 清遠 瑞 小木曾泰香

佐茂明祥 本郷谷恵

・かな部 (I類)

大崎香織 中里智香

・かな部 (II類)

小林溪姫 徳永美恵子

・近代詩文書部

齋藤恭子 坂本龍水 穴戸雲水  
高橋奎媛 中島俊恵 新田智美

・大字書部

塩田琴爽 西村達也 堀田白扇  
吉永杏花

・前衛書部

安藤楊風 伊藤聖子 井上恵子

・漢字部 (I類)

生田珠翠 石川溪華 猪原美風

道祖尾良苑 高山紅苑 田中一葉

山崎皐月

・漢字部 (II類)

青木藤蓮 安藤麗華 金延憲市  
庄司咏艸 中込京華

・かな部 (I類)

小春真紀子 田畑寿美子

・かな部 (II類)

小林嘉江 小峰美加子 島尻龍一  
清水節子 菅原滯花 橋本紅霞

・近代詩文書部

石井芳蘭 石田鄭光 磯地白麗  
遠藤光葉 大橋佑朋 大森龍泉

岡本要翠 笠原紫玉 木村順峰  
新宮文葉 齋藤順平 鈴木龍仁

山崎智寿

・大字書部

上岡まゆみ 浜野永童 藤原聖美  
本多江燕 本田賀艸 向井翠窓  
柳 隆扇

・刻字部

笹森彩雨

・前衛書部

新井虹雪 荒谷明美 石黒和喜

近藤桜紅 西條松雲 薩日内秀蓮

田名部茜香 堂園慶子 伏津玲子

藤田香園 蛭川友香里 御園生芳瑤

U23 毎日賞

・漢字部 (I類)

都丸花凪

U23 新鋭賞

・かな部 (II類)

加藤万丈

・前衛書部

伊藤千翔

U23 奨励賞

・かな部 (II類)

渡辺和音

・近代詩文書部

芳賀真桜

・大字書部

下村彩菜



U23 毎日賞 (副賞)



U23 奨励賞 (副賞)



U23 新鋭賞 (副賞)

— 墨魂の群像 —



「吾家は狭けれど…」 70.2×139.5cm

加藤翠柳



「感謝の一生 八十のよろこび」 118.0×118.0cm  
1998（平成10）年 第50回毎日書道展文部大臣賞  
種谷扇舟



「雲海や…」 150×95cm  
2002（平成14）年 村野大仙書作展  
村野大仙



「捨」 68.5×98.5cm  
2008（平成20）年 恩地春洋書展  
恩地春洋

古典鑑賞

472

雁塔聖教序(褚遂良)

③

〔解説〕前号の続きになるが、上田桑鳩は『雁塔』のタテ画について、「顔真卿の元祖」という言い方をしている。顔真卿に影響を与えたという意味であるが、両者に共通する筆遣いがあるということだろう。線の中ほど(下図の矢印あたり)に「力と速さを加え、下に



(編集部)

はじき出す」と説明している。もちろん、全てのタテ画にあてはまるわけではないが、ところどころ見つけることができる。左に示しておくので参考にされたい。



※掲載図版95%に縮小

大之則彌於宇／宙。細之則攝於／豪釐。無滅無生。／歷千劫而不古。

(東京国立博物館蔵)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 (A. 大作の一部-毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可) 当該古典の上記掲載部分以外も可。  
 (B. 小品の一部-半切 $\frac{1}{2}$ 以上半切以内、全紙 $\frac{1}{2}$ 以内も可(A・B縦横自由))

※特別研究部の課題の範囲に「序記」(高宗選文のほう)は含まれませんのでご注意下さい。

高野切第三種  
(伝紀貫之筆)

③

〈よみ〉

凡河内躬恒  
おほしらのみこ

よをすてゝ

やまにゐるひと

やまにても

なほうきときは

いづちゆくらん

〈解説〉古今集・第96番歌、躬恒の歌が今月の課題である。一見して、寸松庵色紙のような散らし書きであるため、第三種の書き手はこんな書き方もできるのかと驚かされるが、実は2行書きの本文を5つに裁断し切り接いだものである。これがいつ行われたかは不明であるが、おそらく茶道が流行した頃に茶室に飾るために茶掛けとして仕立てられたと推定される。

現在は徳川ミュージアムの所蔵であり、2017年に開館50周年を記念して修復された。同館のホームページで、全体の姿を見ることが出来る。

各自、書きやすい大きさにワクを書いてから臨書してみてください。(編集部)

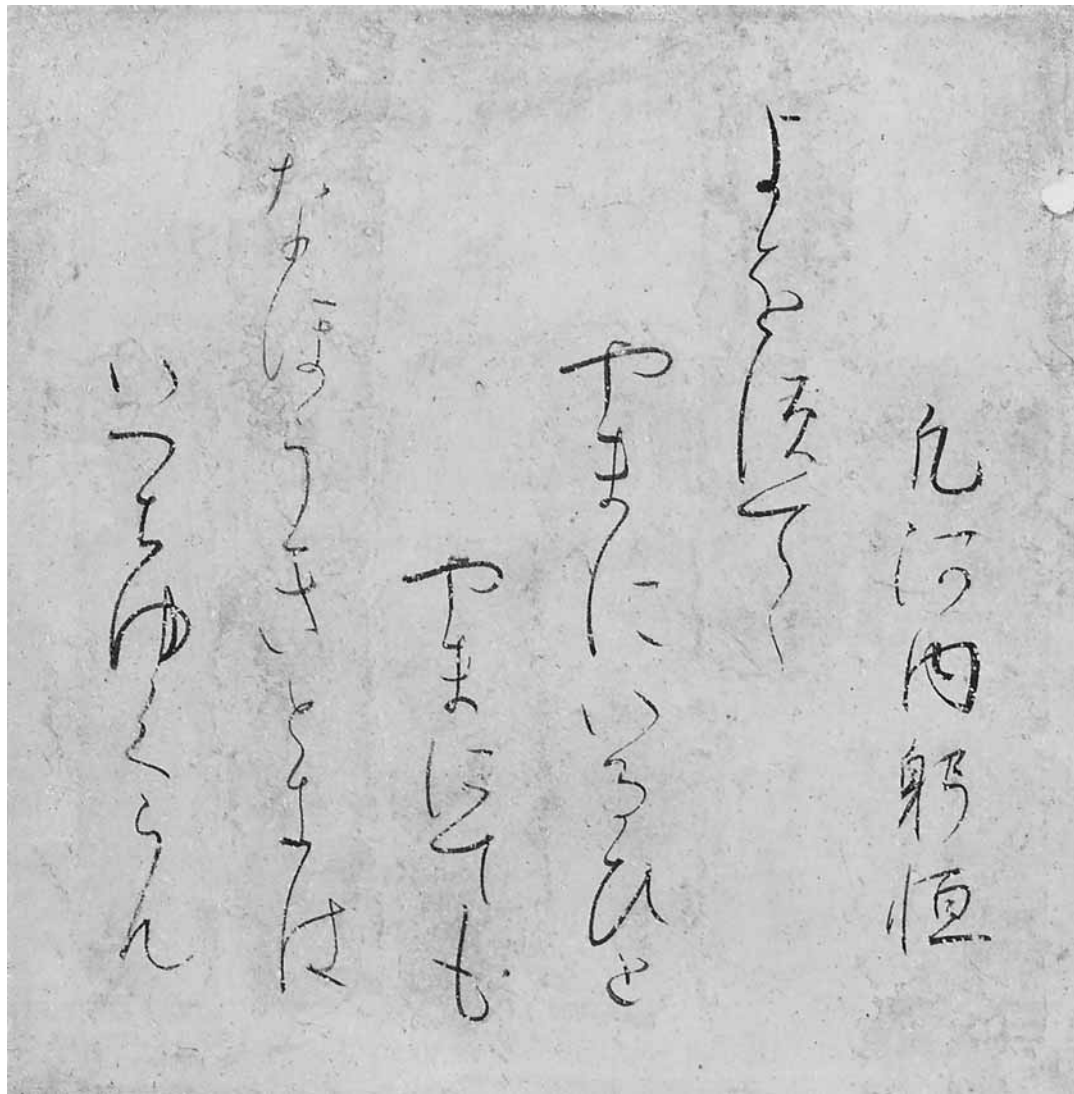
※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

特別研究部臨書課題

A. 大作の部=毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可  
B. 小品の部=半切 $\frac{1}{2}$ 以上、半切以内(縦横自由)、全紙 $\frac{1}{2}$ 以内も可  
<いずれも上記の掲載以外も可。>



※古筆は原寸(以上も可)で臨書しなさい。

(徳川ミュージアム蔵)

※掲載図版・原寸



漢字規定 初段以上 【10月15日締めきり】 用紙 半紙普通判

坂本素雪 選書



道無横徑

よみ (道に横径無し)

書体 自由

### 習い方解説 (3)

坂本素雪

道無横徑

(道に横径無し)

(禅語)

真理に至る大道には横道もない。とかく人々は大道があるにもかかわらず、横道や近道に入りたがる。

大道を闊歩するように、堂々とした運筆にした。それぞれの字は自体の持つ特徴と美しさがある。それを見つげ出すのは大変だがワクワクする。

「道」(一)の終筆を次に続くようにして止める。

「無」1画目は上部でなく中ほどにして重心を下げる。2画目は余白美を意識して運筆する。

「横」線質密だから字は大きくしない。やや小さめにして煩しくないように纏める。

「徑」「イ」の草書体が「シ」の草書体のように要注意。同じでなくてもよい。

漢字規定 秀級以下 【10月15日締めきり】 用紙 半紙普通判

稲垣小燕選書

松風水月

小燕書

水松 月風

松風水月

よみ (松風水月)

書体 楷書

### 習い方解説 (3)

稲垣小燕

松風水月

(松風水月)

(唐太宗)

松に吹く風と、水に映る月。  
清らかなことにたとえる。

松に吹く風のようにさわやかで、  
水面に映る月のように澄みきって  
いる、そのような清らかな心境。  
人格を言い表す言葉です。

今回の語意から爽やかさや清澄  
感を表現しようと虞世南の孔子廟  
堂碑を念頭に書作しました。

その線質は外柔内剛つまり外側  
は丸みがありやわらかで内に力が  
入っていて強い、と言われています。  
全体として、伸びやかな引く  
線が基調となっています。自然体  
でゆったりとし、字形はすっきり  
とした雰囲気です。一見平凡に見  
える構成ながらそのことがかえっ  
て高い品位を醸し出しています。  
筆は硬い毛のものを使用し引く  
線の特徴が表れるよう筆管の上の  
方を持って書きました。墨は爽や  
かさ、清らかさが伝わるよう少し  
うすめにしてみました。

習い方解説 (3)

下谷 洋子

若<sup>わか</sup>の浦<sup>うら</sup>に潮<sup>しほ</sup>満<sup>み</sup>ち来<sup>来</sup>れば濁<sup>たが</sup>をなみ  
葦<sup>あし</sup>辺<sup>へ</sup>をさして鶴<sup>つる</sup>鳴<sup>な</sup>き渡<sup>わた</sup>る

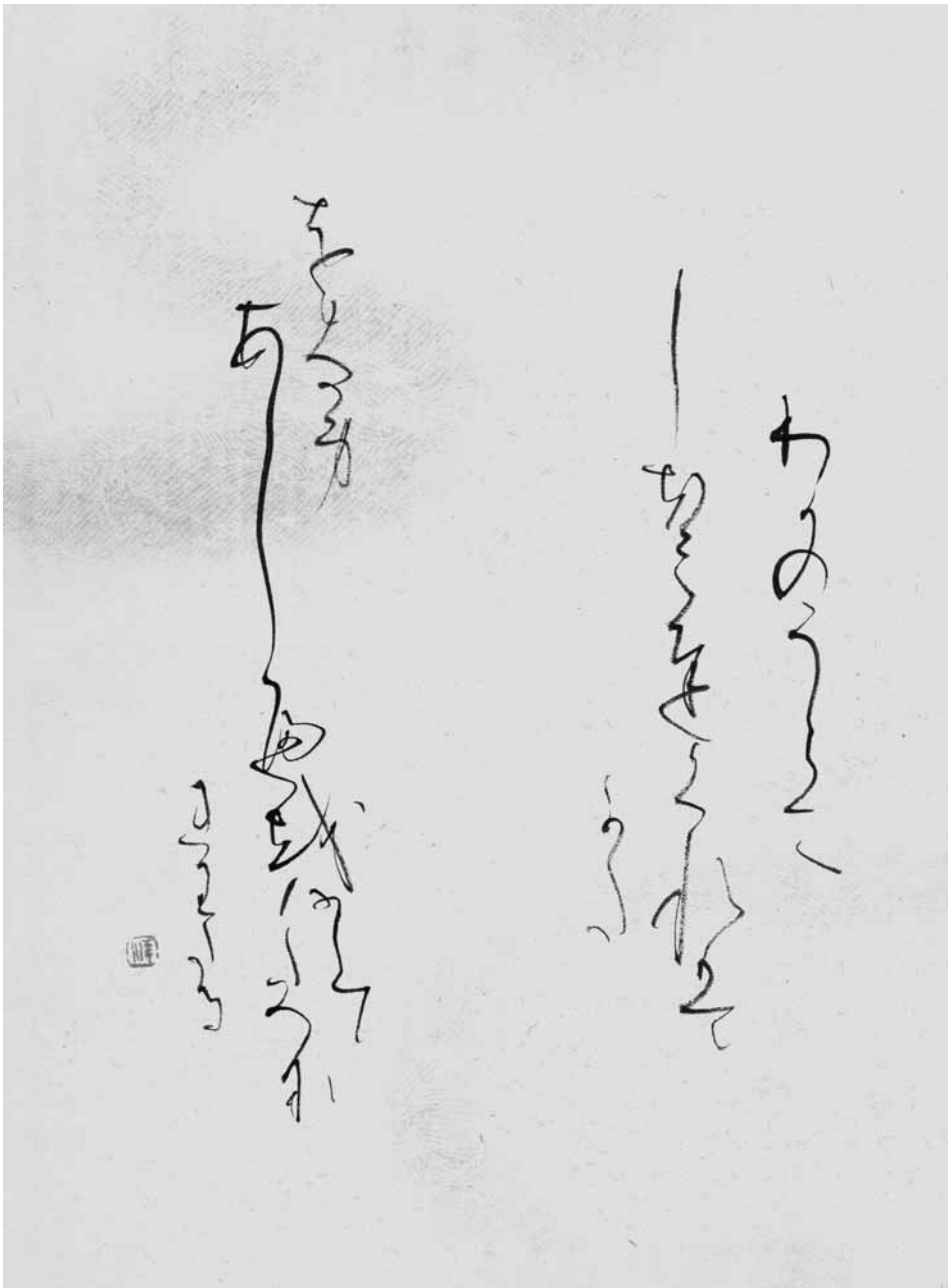
(山部赤人「万葉集」)

和歌の浦に潮が満ちてきたので、  
干潟がなくなり、芦辺のほうをめ  
ざして鶴が鳴きながら渡って行く  
よ。

神龜元年(724)10月、聖武天皇に  
よる行幸賛歌の一部として詠まれた  
長歌の反歌。すぐれた叙景歌として  
平安時代以降も山部赤人の代表作と  
して知られている。

漢字の多い歌ですが、全てかなで  
書きましたので、置き換えずに書い  
てみるのも面白いでしょう。同じ繰  
り返しの字が多くなりました。これ  
も、ちょっとした線の長短や方向で  
変化をつければ敢えて変えなくても  
いいですね。

あし遍で墨継ぎをし、大きな動き  
でゆったりと流れを出しましょう。



よみ方

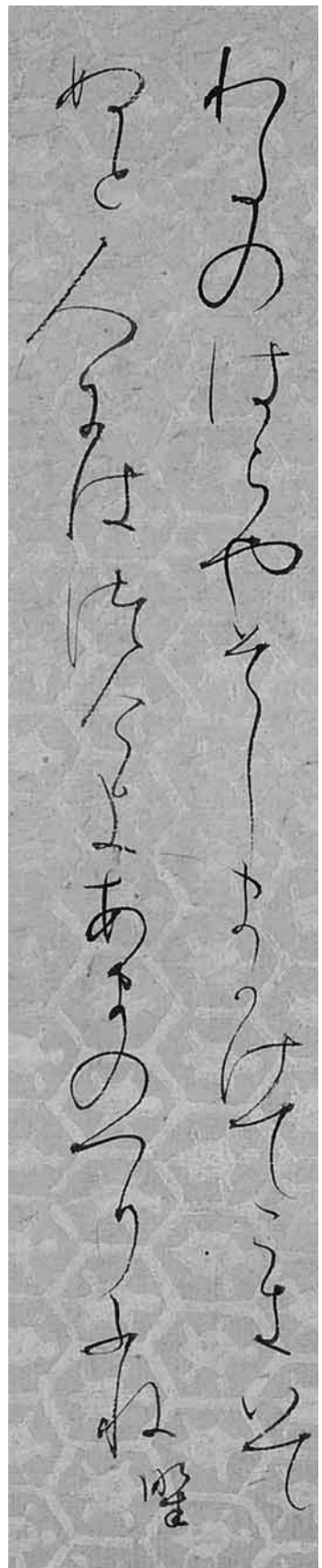
若(わ可)の浦(うら)に(二)潮(しほ)満(み)ち(三)来(来)れば(盤)濁(たが)をな(奈)み(身)  
葦(あし)辺(へ)を(越)さ(さ)し(て)鶴(つる)鳴(な)き渡(わた)る

創作

\*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。半懐紙は上記のサイズに切って下さい。

かな規定 秀級以下 【10月15日締めきり】 用紙 半紙タテ1/2 (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)  
 掲載写真の和歌を臨書する。部分臨書も可。〈注〉署名は「〇〇臨」。粘葉本和漢朗詠集(掲載写真拡大120%)

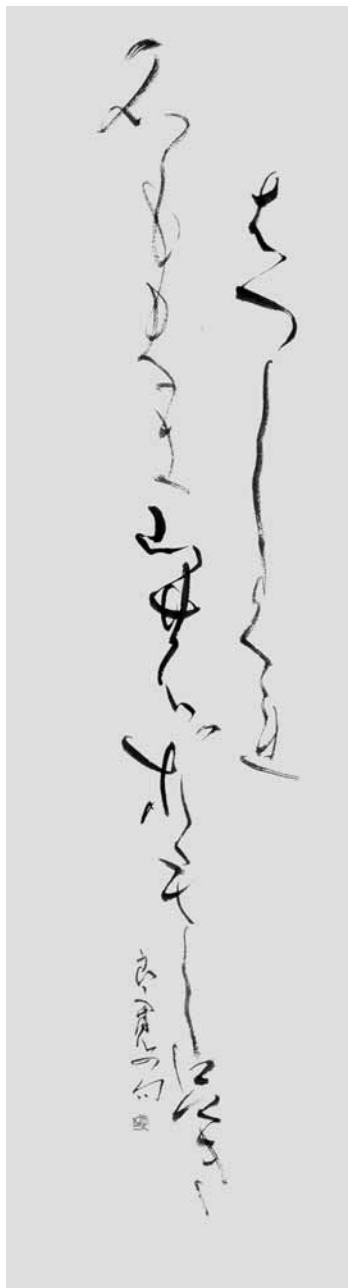
※2行目下の「野」は書かなくてよい。



よみ方 わたのはらやそしまかけてこぎいで  
 ぬと人にはつげよあまのつりぶね

歌意 (隠岐国に流罪となった) 私は、大海原の多くの島々の間を通過して堂々と漕ぎ出していったのだと、都の人には告げておいてくれ、釣り舟の漁師よ。

かな条幅規定 【10月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切(料紙可) 見越雪枝選書



よみ方 初(者)しぐ(久)れ(連)名もな(奈)き(文)山(の)農(お)於(も)毛(しろ)呂(き)

※タテ形式に限る

創作

### 習い方解説 (3)

見越雪枝

初しぐれ名もなき山のおもしろき (良寛)

今年はじめの冷たい時雨が降った。ありふれた名もない山ではあるが、木の葉が落ちつくした山に降る雨の様子は、何か心ひかれる趣があるよ。

俳句の創作は多種多様な表現ができます。文字の大小、潤濁に配慮して下さい。「山」で墨を継ぎました。

漢字条幅規定 初段以上 【10月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

後藤大峰 選書

白日依山盡 黃河入海流 欲窮千里目 更上一層樓

白日依山盡 黃河入海流 欲窮千里目 更上一層樓  
(白日山に依つて尽き、黃河海に入りて流る。千里の目を窮めんと欲し、更に一層の樓に上る。)

書体||自由

漢字条幅規定 秀級以下 【10月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

小林琴水 選書

秋菊有佳色 裊水之

秋菊有佳色 (秋菊に佳色有り)

書体||自由

### 習い方解説 (3)

後藤大峰

北魏の書を良くとらえた清の作家趙之謙の書は、重厚というのがあてはまる落ちつきのある書です。大きく、ゆすりをかけた横画、ダイナミックに筆を大きく回転させた転折等、魅力に溢れるものです。そのあたりを、しっかりと学んで頂きたいと思えます。

大きく伸びやかに、書いてみて下さい。

※タテ形式に限る

### 習い方解説 (3)

小林琴水

「秋の菊にはなんともいえない美しい色どりがある。」

横への張り、左右の動きを強調させて、字形を広げたり、締めたりして、一行書のバランスを考えましょう。

揉銀の消しつやゆゑ  
 墨のいろよくうつるら  
 時雨月かかるひと夜は  
 草仮名に心ゆくなり  
 白秋詩「草仮名」白琉書

書体＝自由

◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用  
 ◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守って下さい。

【注意】

### 習い方解説 (3)

北村 白琉

私の担当する最後のページも北原白秋の詩から選びました。白秋が草がな(万葉がなを草体に書きくずした字体)の美しさに魅せられている秋の夜。時雨月にかかるしつとりとした情緒のあふれる詩なので、その雰囲気損なわないように書きたいと思いました。

漢字かな交じりの詩ですが、上部に漢字が集まり下部はかなが占めますので、前回までの鄭義下碑に加え、粘葉本和漢朗詠集の臨書をしてから書いてみました。しかし生半可な勉強ではどうにもならず、常日頃から臨書の大切さを痛感致しました。漢字は行書にしましたが、運筆を急がず心をこめて丁寧に書いて頂きたいと思えます。

揉銀の消しつやゆゑ  
 墨のいろよくうつるらし  
 時雨月、かかるひと夜は  
 草仮名に心ゆくなり

白秋詩「草仮名」〇〇書

# 令和六年の二十四節気

五月五日 立夏 リツカ 二十日 小満 しょうまん

六月五日 芒種 ぼうしゆ 二十一日 夏至 げし

七月六日 小暑 しょうしよ 二十二日 大暑 たいしよ

八月七日 立秋 りつしゆう 二十二日 処暑 しよしよ

児玉 韜光

令和六年の二十四節気／五月五日 立夏 りつか 二十日 小満 しょうまん／六月五日 芒種 ぼうしゆ 二十一日 夏至 げし  
七月六日 小暑 しょうしよ 二十二日 大暑 たいしよ／八月七日 立秋 りつしゆう 二十二日 処暑 しよしよ／氏名

書体 自由

- ◇ 小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓名(号)を (掲載手本85%に縮小)
- ◇ 用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇ 所定の出品券を作品の右下に貼る



漢字条幅部 師範 藤井 龍仙  
大小、曲直、潤濁、細太の変化多彩で見所の多い作。熟達した技量の高さが窺える行草作品です。

◎漢字条幅部総評 下級の一行書は、適度な筆でポリウムが必要。上級の行草作品は誤字が目立った。校字を丁寧に。(萬城評)



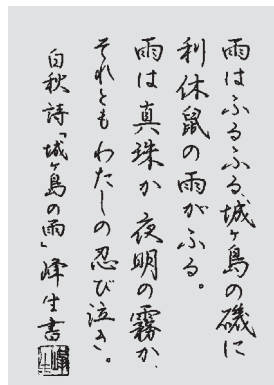
かな条幅部 準師範 小峰美加子  
リズムにのったしなやかな流れが、かなの醍醐味を伝える作品。締まった線に的確な墨量が映える。

◎かな条幅部総評 かなの連綿は漢字よりも複雑、今回も抑揚のある連綿把握ができていない方散見。古筆からの確認を。(洋子評)

漢字部 師範 富田 瑤翠  
豊かな墨量で、悠然とした息使いを羊毛筆で自在に遊筆させた手腕に敬服。一層の精進を期待。  
◎漢字部総評 行草の表現領域は広いのでもっと工夫の余地あり。他の書体も同じ。臨書を基に色々発展させることが大切。(石雲評)



現代詩文書部 特選 長谷川 翠  
氣宇雄大、淡墨の滲みが美しく多彩な線が紙面を照らす。小書きの部分も見事で宇宙へと誘われる。  
◎現代詩文書部総評 文字をただ並べても作品としては難しい。自然な流れの中で美を創造。(萬鳳評)

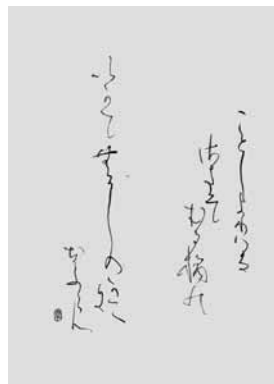


雨はふるふる城ヶ島の磯に  
利休鼠の雨かふる。  
雨は真珠か夜明の霧か  
それともわたしの忍び泣き。  
白秋詩「城ヶ島の雨」峰生吉

ペン字部 師範 松山 峰生  
字間を上手く取り構成が成功した。ふっくらとした書体で静かな情景にゆとりを感じる。  
◎ペン字部総評 全体的に中心線のゆがみを感じられた。極端に字粒の大きい漢字や、平がなどのバランスも考慮したい。(雪枝評)



前衛書部 特選 伊藤 有津  
筆力充実、運筆に迷い無く風格あり。スケールの大きな作品の仕上がり爽快。  
◎前衛書部総評 個性溢れる、発想の展開を今後の出品に期待。(仙岳評)



かな部 師範 池田 幸子  
リズムに乗って快い調子で連筆した。潤濁の変化が、行間の響きを美しく魅力的にしている。  
◎かな部総評 字形が整ったのびやかな作品が多かった。余白を考慮した散らし書きの表現が作品の格調を高めます。(峰子評)



實用書優秀作品

選評 西川 翠 嵐

令和六年の二十四節気  
 一月六日 小寒 二十日 大寒  
 二月四日 立春 十九日 雨水  
 三月五日 啓蟄 二十日 春分  
 四月四日 清明 十九日 穀雨  
 廣戸美岐

特選 廣戸 美岐

穂先が整っていて筆線が美しい。  
 スッキリとして伸びやかな書。

令和六年の二十四節気  
 一月六日 小寒 二十日 大寒  
 二月四日 立春 十九日 雨水  
 三月五日 啓蟄 二十日 春分  
 四月四日 清明 十九日 穀雨  
 佐藤光耀

特選 佐藤 光耀

ひきしまった結体、わずかに右あ  
 がりして大変安定しています。

◎実用書部総評

大切なことはご自分の書で表現すること。実用書ですから臨書ではなく、  
 手本を見つつ、学んだ古典を生かして伸びのびと書いて下さい。(翠嵐評)

竹原 芳蘭	清月 蘭鼎	四枝 川崎	たか 浮須	竹原 池田	佳 俊美	楓会 吉田	瑠韻 林美奈子	福山 徳永	墨洋 高橋	水莖 高岡	常盤 水津	梓江 佐藤	大雲 鷺山	亀松 池田	千葉 安藤	秀 作	竹美 横山	深大 多胡	宗苑 茂木	堂光 佐藤	紅瑠 廣戸	
代田 齊藤	小林 嘉江	川崎 優子	廣流 康彰	俊美 池田	作命書	裕 美奈子	裕 美奈子	栄杏 高橋	秀汀 高岡	秀風 高岡	祥扇 佐藤	美梢 佐藤	直子 鷺山	叙孝 池田	叙孝 安藤	作命書	蘭舟 横山	三子 多胡	絢水 茂木	光耀 佐藤	美岐 廣戸	
橋雅 深大	こた 華仙	加藤 菊地	小幡 翠陽	書游 大雲	大雲 書游	高真 立精	八街 猪股	伊藤 石井	水壑 伊藤	八木 伊藤	もく 青木	紅瑠 相澤	相澤 藍澤	入 渡辺	大雲 昌苑	白露 松村	吉田 翠綾	深澤 佳月	永見 史瑩	たか 楠泉	千葉 竹浪	
宣恵 小松	久下 北爪	鼓祥 翠陽	翠華 小幡	小幡 美楓	梅山 郁子	岩上 照子	白懸 照子	香雨 香雨	香雨 香雨	香雨 香雨	香雨 香雨	香雨 香雨	香雨 香雨	香雨 香雨	香雨 香雨	香雨 香雨	香雨 香雨	香雨 香雨	香雨 香雨	香雨 香雨	香雨 香雨	香雨 香雨
幸扇 華仙	柳瀬 宮内	典子 華華	幸扇 華仙	幸扇 華仙	幸扇 華仙	幸扇 華仙	幸扇 華仙	幸扇 華仙	幸扇 華仙	幸扇 華仙	幸扇 華仙	幸扇 華仙	幸扇 華仙	幸扇 華仙	幸扇 華仙	幸扇 華仙	幸扇 華仙	幸扇 華仙	幸扇 華仙	幸扇 華仙	幸扇 華仙	幸扇 華仙
山本 梅香	山本 梅香	山本 梅香	山本 梅香	山本 梅香	山本 梅香	山本 梅香	山本 梅香	山本 梅香	山本 梅香	山本 梅香	山本 梅香	山本 梅香	山本 梅香	山本 梅香	山本 梅香	山本 梅香	山本 梅香	山本 梅香	山本 梅香	山本 梅香	山本 梅香	山本 梅香



史音 帆江 定帆 史江 陽舟 祥舟

線の強さ躍動感最高  
細線、余白と軽妙な力作  
大胆な表現力に魅力あり  
動きの変化凝縮して見事  
紙面を存分に生かし良作

梨秀 光琴 淳子 百合子 洙紅

切り裂く線、構成見事  
剛快な書線、堂々の快作  
墨色と用紙が調和し秀作  
鍛練された線、軽妙な作  
無理のない運筆、圧巻作

選評 大石仙岳

白美 一美 芳蘭 素子

抒情的で静寂の世界  
素朴で温雅な世界安らぐ  
衛い無く自然光景浮かぶ  
朴訥として稚拙美満開

紅雨 順香 和江 順香 泰香

疎密の変化あり余白冴える  
強靱な線で氣迫溢れる  
淡々とした書きぶり好感  
氣宇雄大、線動く圧巻  
多彩な線質で躍動感漲る

英桃 美楓 恭子 舞夢

穂先の開閉見事で線動し  
工夫凝らした構成面白い  
線動く生氣漲る堂々の作  
筆勢豊富で律動感迸る  
淡墨の滲みが抒情を誘う

祥舟 四夏 藤象 華舟 美悠

骨力ある直線で威厳保つ  
運腕大きく多彩な線よし  
骨力秘めた線品位迸る  
繊細で明るく詩情豊か  
線動く強弱あり躍動感充滿

選評 飯沼恵鳳

# 特別研究部優秀作品(特選)

選評 下谷洋子 種谷萬城 田村鄭雲 北村白琉

## 小品の部

臨書 (竹美会)

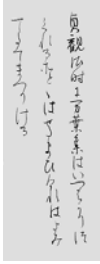
八木橋 紀舟  
「高野切第三種」



八木橋 紀舟 臨

35×67cm

部分拡大



◆静かで丁寧な呼吸が伝わる。臨書の紙ではないが、紙質と墨色も調和し、筆も自分の書きやすいものと拝見、全てが自然で古筆に適い麗しい。(洋子評)

臨書 (千葉)

安藤 叙孝  
「雁塔聖教序」

臨書 (宗苑社)  
茂木 絢水  
「雁塔聖教序」

部分拡大



◆紺紙金泥による完成度の高い作品。金泥の具合も出来で、手慣れた技術の高さが窺える。原本の品格の高さが感じられる品性の高い臨書作品。(萬城評)

茂木 絢水 臨



135×35cm

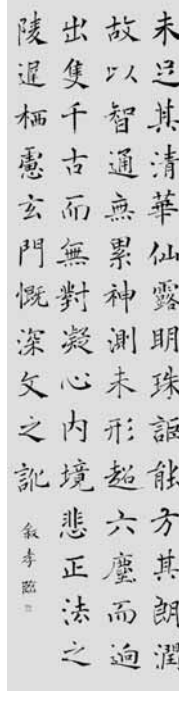
前衛書 (玉州)  
角張 芳蘭  
「かける」



角張 芳蘭 書

135×35cm

◆淡墨の潤濁を十分に生かし、難しい縦長の紙面に上手に構成。中央縦に走る細線がやや弱いのが惜しい。(白琉評)



安藤 叙孝 臨

135×35cm

◆細やかな変化を見逃さずに再現した鑑賞力の高さが窺える作品。余白の美しさも考慮されており、原本の美しさに惹かれた情感が現れた臨書態度に拍手。(萬城評)

総出品点数  
77点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

四枝 及川 豊流

水荃 高岡 秀汀

〔かな〕

潮音 齋藤 杏邑

〔現代詩〕

青蓮 伊藤 有津

蒼風 笹木 蒼風

玄穹 尾形 紅霞

舍人 平塚 汀泉

花笠 高橋 奎媛

〔前衛〕

千枝 金子 美千

秀水 坂井 初江

宮古 長澤 紅苑

〔臨書の部〕

〔漢字〕

華祥 小泉 永潤

澄春 浜野 芳蘭

英峰 佐藤 桂香

東総 三浦 英樹

蒼原 北嶋 春樹

八街 三浦 昌弘

蒼原 谷津 昌弘

春城 東原 春城

〈小品の部〉

創作の部(37点)

漢字 5点

かな 1点

現代 20点

篆刻 0点

前衛 11点

臨書の部(40点)

漢字 38点

かな 2点



漢字研究部  
(雁塔聖教序)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



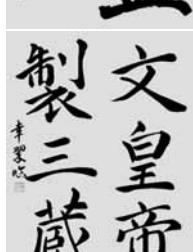
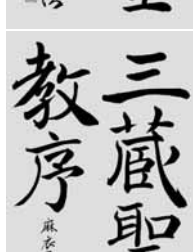
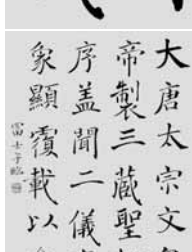
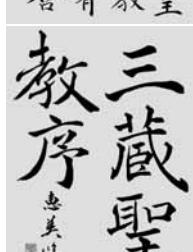
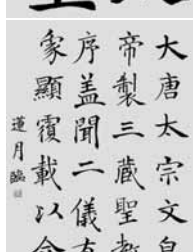
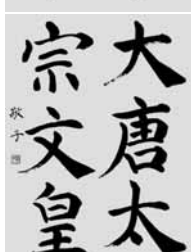
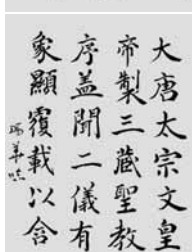
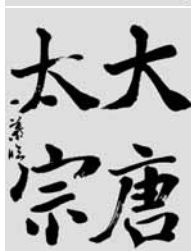
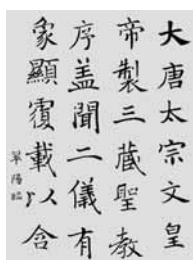
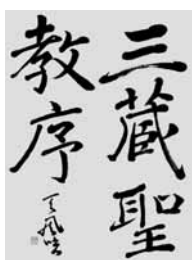
鈴木 和恵

◎漢字研究部総評

今回の雁塔聖教序は、多くの方に馴染み深い作品である見え、出品された臨書もレベ

漢字研究部 特選 鈴木 和恵  
運腕大にして筆脈が通じ、明るいうらぶムも感じられます。字形も整い、細部の用筆にも気を配った秀作です。ただし、落款に少々硬さを感じます。本文に調和するよう心がけて下さい。

ルの高い作品が多く寄せられました。誤字や結体に問題のある作品は殆ど見られませんが、用筆に問題のある作品が少なからずあったのは残念です。特に「蓋」字の皿部の一画目の入筆に注意が必要かと思われました。「俯仰法」という筆法を理解されると自然な運筆が可能になるものと考えます。



富金恵瑞祥天  
士士水華風風  
子子子子子子

麻恵蓮佳瑤翠  
衣衣月波翠陽  
子子子子子子

幸恵杏敦良有  
翠子邑子章津  
子子子子子子

蒼美雪敬一悦  
香枝篁子葉子  
子子子子子子



# 審査会員の部 結果発表 (出品数 漢字33点・かな18点)

選評 小竹石雲・平川峰子  
漢字秀逸作



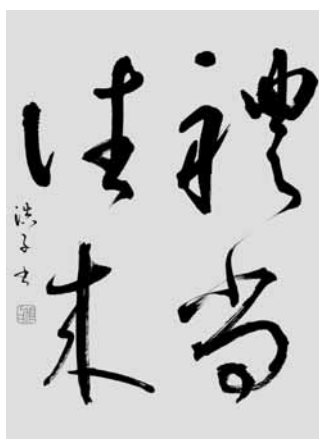
鈴木 英晴



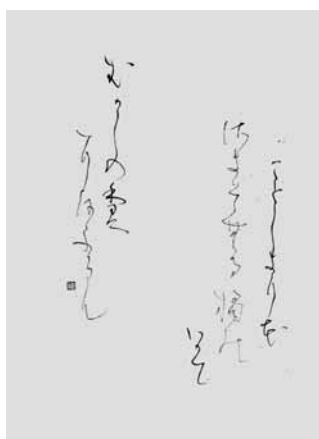
神谷 雲卿



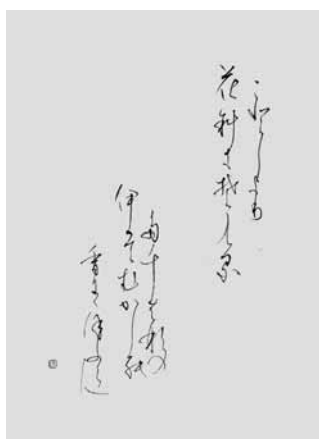
西川 藤象



佐々木浩子



茂木 絢水



藤村 昌子

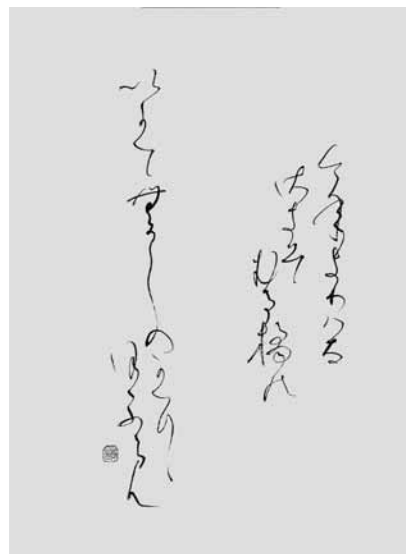
〈次点・50音順〉

奥村 美楓



気持ちの充実感が作品に投影された緊張感漲る作。小粒ながら余白の透明感と瀟洒な筆致で格調高い作に仕上がる。印のみでなく落款も入ればさらに貫禄がつくのでは。(石雲評)

かな秀逸作



齋藤 杏邑

伸びやかに紙面を走る曲線がリズム感溢れ気力を充実させている。散らしの構成もよく、美しい余白が生まれ、スッキリと仕上がっている。

(峰子評)

# 香川倫子先生

## 「お別れの会」のご報告

日時 令和6年6月15日(土)  
会場 上野精養軒

三森慧香

去る6月15日に上野精養軒3階の桜の間において、多年に亘り書道芸術院のためにご尽力された故・香川倫子先生の「お別れの会」(2月9日ご逝去・95歳)を、ご来賓の皆様や会員の皆様をお迎えし開催いたしました。

祭壇にはメガネをかけた、お得意なブラウスにジャケット姿の遺影と、また献花にはダイヤフレを選択しお飾りして戴きました。

会場壁面には先生の作品とスナップ写真(パネル仕様で陳列)、机上には硯・筆・落款印等を展示し、スクリーンでも画像を流し、即席の思いでコーナーを設営、献花後皆様には歓談しながらご覧戴きました。懐旧の情が漂う会場風景の様子にきつと倫子先生も天

上で同様の念に駆られたことと想像いたします。「お別れの会」の開催に際し、辻元顧問、下谷理事長、小竹・後藤常務理事、片岡事務局長、事務局皆様各位に格別なお力添え、ご配慮を戴きましたことに心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、協賛費をご献納戴きました先生方にはこの場をお借りして衷心より御礼申し上げ「お別れの会」の報告とさせていただきます。



下谷理事長



会場正面の祭壇



先生の遺愛の品々



来賓の中原志軒先生



# 特別昇段級試験の漢文解説

## ◎漢字条幅第二種・第三種

王安石「即事」

徑暖草如積 山晴花更繁

縱橫一川水 高下數家村

靜憩雞鳴午 荒尋犬吠レ昏

歸來向レ人説 疑是武陵原

(徑暖くして草積むがごとく 山晴

れて花更に繁し)

縱横一川の水 高下数家の村

静かに憩えば鶏午に鳴き 荒尋す

れば犬昏に吠ゆ

帰来して人に向かいて説く 疑う

らくは是れ武陵原)

↓小道は暖かく草むらはこんもりと。

山は晴れ咲き乱れる花々。一すじの

川が縦横に曲がりくねり、山の高所

や低所に数軒の家。屋下がり、静か

に休んでいるとどこからか鶏の声。

日暮れに寂しく暗い所を散歩すると

犬の遠吠え。帰宅して家人にこう言

う。ここは陶淵明があこがれた武陵

の桃源境ではなかるうか、と。

(解説) 王安石は北宋の政治家。新法

派として歴史の教科書でもおなじみ。

春の村里の平和な様子を描いているが、

5・6句に鶏と犬がでてくるのは「老

子」に「鶏犬の声相聞こゆ」とあるため

で、平和の象徴としてこれを引用する

のはよくある手法である。

## ◎漢字条幅部第一種

陶潜「癸卯歲始春……」

先師有遺訓 憂道不憂貧

瞻望邈難逮 轉欲志長勤

(先師に遺訓有り 道を憂えて貧を

憂えず 瞻望するも邈として遠び難く 転

て長勤に志さんと欲す)

↓孔子が残された教えに「道が行なわ

れないことを憂い、自分の貧窮は心

配しない」とある。この教えを仰ぎ

見るが、はるかに遠くて及びもつか

ない。私としてはいつも通りに仕事

に励むだけである。

(解説) 作者39歳の時の16句からなる

五言古詩。母の喪に服し、郷里に帰っ

て、村人とともに農作に励む生活を描

く。「論語」に長沮と桀溺という隠者

が登場するが、ここでは自分をふたり

になぞらえて、そこに人生の理想を見

る。陶潜はやがて官職に就くが、「帰

去來辭」を書いてこの生活に戻る。彼

にとって田園こそが自分らしく生きら

れる場所なのだ。

## ◎漢字条幅第二種

阮元「吳興雜詩」

交流四水抱城斜 散作千溪遍萬家

深處種菱淺種稻 不深不淺種荷花

(交)も流るる四水は城を抱いて斜

めに 散じて千溪と作って万家に

遍し

深き処は菱を種え浅きは稻を種う

深からず浅からざるには荷花を種

う)

↓四すじの川が交错して町を囲み斜め

に流れている。その川は小さく分か

れ多くの谷川となり家々に水を運ぶ。

川の深い所には菱を種え、浅い所には

稻を種える。そうでない所には荷

花を種えるのだ。

(解説) 「北碑南帖論」で有名な阮元

は清時代の学者であり、いわゆる碑学

派の理論的支柱である。26歳で進士に

及第し、政府高官として地方の総督な

どを勤めた。この詩は呉興(浙江省湖

州)での作。第一句は杜甫の「江村」

の「清江一曲村を抱いて流る」という

フレーズを踏まえている。太湖の南の

水郷の農村の様子を細やかに描いた。

なお、菱は水草で白い花をつけ秋にひ

し形の実を結ぶ。実は食用になる。荷

花ははすの花。

## ◎ペン字部

元好問「少室南原」

地僻人煙斷 山深鳥語譁

清溪鳴石齒 暖日長藤芽

綠映高低樹 紅迷遠近花

林間見雞犬 直擬是仙家

(地僻にして人煙断え 山深くして

鳥語譁し)

清溪石齒鳴り 暖日藤芽長ず

緑は高低の樹に映じ 紅は遠近の

花に迷う

林間に鶏犬を見る 直ちに擬す是

れ仙家)

↓ここは僻地で人家の煙は見えない。

山が深いので鳥のさえずりが騒がしい。

清らかな谷川の水に連なる石が鳴り、

暖かい日に藤の芽が伸びる。高い木

にも低い木にも緑は映え、あちらこち

らの花の紅の色は目を迷わせる。林の

間から鶏や犬の姿が見える。これこそ

まさしく仙人の世界である。

(解説) 題名の少室とは、嵩山の峰の

一つ。宋代の詩人、元好問は戦乱を避

け嵩山のふもとに住み、つかの間の平

安を得て学問に打ち込んだ。黄河流域

は段丘になっていることが多く、断崖

の上は平らな「原」が続く。作者はそ

んな光景を平易に表現した。前述のよ

うに「鶏犬」は平和の象徴であり、理

想郷や仙界に通じる。



# 書道芸術院秋季展

●書道芸術院役員 ●審査会員選抜 ●審査会員候補公募

会期=令和6年10月8日(火)~13日(日) 10時~18時  
(最終日は17時迄)  
(最終日のアートサロン毎日は14時迄)

会場=セントラルミュージアム銀座 東京都中央区銀座3-9-11  
紙パルプ会館5F ☎03-3546-5855

## 〈併催〉書道芸術院前衛書展 (22名出品)

会場=アートサロン毎日 東京都千代田区一ツ橋1-1-1  
パレスサイドビル1F ☎03-3212-2918

主催=(公財)書道芸術院 理事長 下谷 洋子

後援=毎日新聞社 (公社)全日本書道連盟 (一財)毎日書道会

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7 東神田プラザビル3F ☎03(3862)1954

## 第25回 書道芸術院 九州支局展

御高覧くださいませよう  
御案内申し上げます

出品者 九州支局会員・準会員による作品 70点  
本部役員による作品 5点

日時 2024年9月13日(金)~16日(月・祝)  
10:00~17:00(最終日は15:00まで)

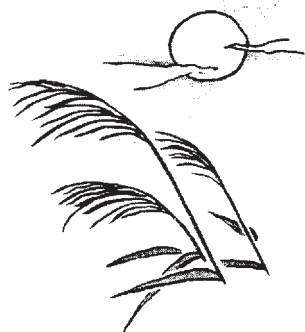
会場 コスメイト行橋 (多目的ギャラリー)  
行橋市中央1丁目9-3 TEL 0930-25-2300

◆講習会 9月15日(日) 10:00~15:00  
会場:コスメイト行橋 レクチャールーム  
講師:(公財)書道芸術院 顧問 辻元 大雲先生

主催 書道芸術院 九州支局

共催 行橋市文化協会

後援 福岡県・福岡県教育委員会・福岡県美術協会  
行橋市教育委員会・荻田町教育委員会・荻田町文化協会  
みやこ町教育委員会・みやこ町文化協会  
毎日新聞社・西日本新聞社・NHK北九州放送局



# 書展

## 第38回 書泉会展

— 併催・大辻多希子書展 —

倉林 紅瑤

会期 令和6年8月16日(金)

19日(月)

会場 高崎シティギャラリー

下谷洋子先生主宰の書泉会展は東京銀座と地元群馬とで交互に開催されています。今年が高崎シティギャラリーを会場に開催されました。1階の第2展示室には全国に広がる会員117名による120点の作品が展示されました。

会場に入った時の第一印象は作品のそれぞれが独特の世界を表現していることでした。さらにそれぞれのかな表現の技術の高さにも驚かされました。華麗な料紙、上品な表装も目を楽しま



大辻多希子書展



大辻多希子書展



書泉会展

せてくれます。出呂聖者のみなさんの並々ならぬ意欲が感じられました。

また「つぼみ 7人」の大作コーナーはエネルギーがみなあふれる作品が展示されました。この7人の中に第75回記念毎日書道展における、かな部Ⅱ類「毎日賞」、かな部Ⅰ類「秀作賞」に2人、漢字部Ⅰ類「U23毎日賞」、かな部Ⅱ類「U23新鋭賞」の受賞者がいます。若い世代に注がれる下谷先生の熱い視線を感じました。

2階の第6展示室では、書泉会展の併催展である「大辻多希子書展」が開催されました。大辻先生のかな書は品格が高く、緊張感に満ちた強靱な書線が魅力です。題材を万葉集、山家集などから、さらに現代の文学者の言葉、シンガーソングライターのお孫さんの歌詞など、幅広く求めていることに、書に向かう精神の若さを感じました。かな書の魅力を十分に鑑賞させていただきます。満ちたりたすがすがしい気持ちで会場をあとにしました。

## 書展のご紹介について

### 。予告

後援申請書を書展会期2ヵ月前までに提出して下さい

### 。報告 (訪問記)

400〜450字程度(1行17字詰)  
会場風景、作品写真等2枚まで

写真の裏にキャプションを必ず明記して下さい。

書道芸術院後援の展覧会に限らせていただきます。お知らせのあった書展のみ掲載いたします。

訪問記掲載の場合、編集部まで事前にご連絡下さい。編集部

## 後援申請について

後援申請をされる場合、書道芸術院所定の申請用紙でお願いします。

事務所にご連絡いただければお送りいたします。

代表の方の団体、社中における役職名を明記して下さい。

# 2024 100回記念 春洋会書展

- 会期 令和6年10月12日(出)  
          ~14日(祝・月)  
10月12日 午後1時~6時  
10月13・14日 午前10~午後5時
- 会場 大阪産業創造館3階  
          マーケットプラザ  
          〒541-0053  
          大阪府大阪市中央区本町1-4-5  
          TEL 06-6264-9800
- 主催 春洋会 (会長) 小林琴水
- 後援 (公財)書道芸術院  
          毎日新聞社



## 競書違反作品の成績表掲載について

### 違反項目

1. 出品券なし → 作品のバーコード出品券未添付
2. 月別出品券違反 → バーコード出品券への月別出品券未添付  
                          及び過去の月別出品券の誤添付(コピー不可)
3. 落款なし → 作品に落款なし(雅印のみ可)
4. 用紙違反 → 規定サイズ以外の用紙使用  
                  ※「ペン字」はハガキサイズ(14.8×10cm)を使用して下さい。
5. 課題違反 → 規定以外の課題、書体違反
6. 形式(縦・横)違反 → 指定と異なる形式
7. 段級未記入 → バーコード出品券の段級未記入

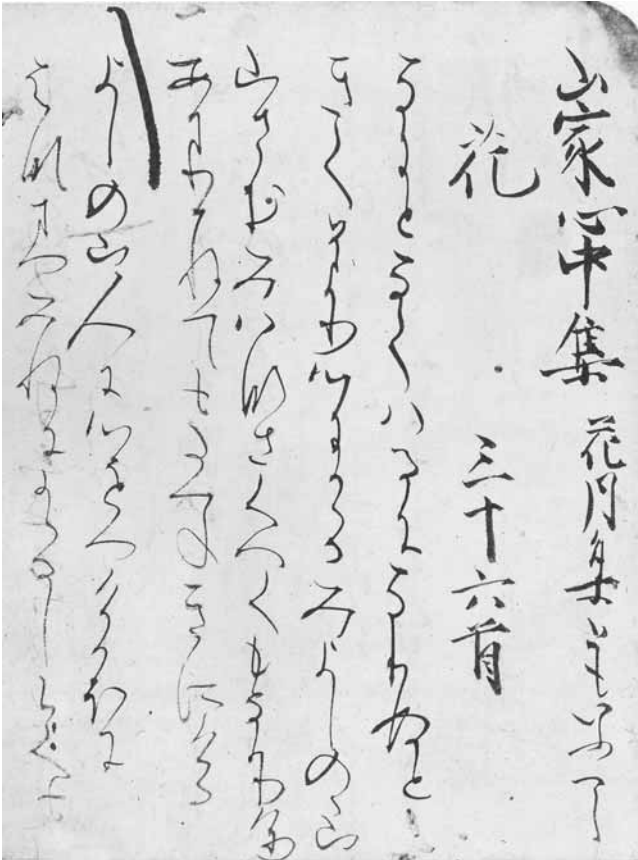
違反作品は返却致しませんので、ご了承下さい。

古筆鑑賞 ②47

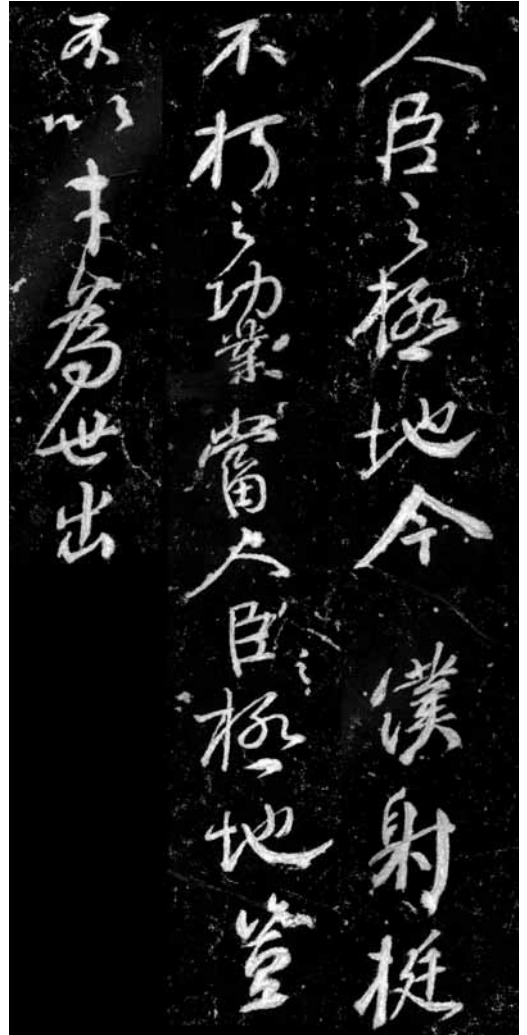
山家心中集 (伝 西行筆) ①

古典鑑賞 ④73

争坐位文稿 (顔真卿) ①



(掲載図版・70%に縮小)



(掲載図版・70%に縮小)

へよみ  
 山家心中集 花月集ともいふべし／花 三十六首／なにとなくはるになりぬと／きく日より心にかゝるみよしの山／山さむみはなさくべくもなかりけり／あまりかねてもたつねきにける／よしの山人に心をつけがほに／はなまつみねにかゝるしらくも

人臣之極地。今僕射挺／不朽之功業。當人臣之極地。豈／不以才爲世出。

のりしろ	
(761)特別研究作品 A大作・B小品 (該当に○を付けてください)	
創作の部	支局・支部名
漢・か・現・篆・前	
臨書の部	
漢字・かな	氏名
作品サイズ タテ ヨコ ( )×( )cm	
積文 題名	

必ず記入して下さい。

規定部		
761. 10月15日締切 漢 字	761. 10月15日締切 か な	761. 10月15日締切 ペン 字
761. 10月15日締切 漢 字 条 幅	761. 10月15日締切 か な 条 幅	
規定部以外		
761. 10月15日締切 篆 刻	761. 10月15日締切 現 代 詩	761. 10月15日締切 漢 字 研 究
761. 10月15日締切 実 用 書	761. 10月15日締切 前 衛	761. 10月15日締切 か な 研 究

※月別出品券のコピー及び過去の出品券の使用は「月別出品券違反」になります。

月例競書作品締切日  
**10月15日必着**

〈月例競書 級位の方へお願い〉  
毎月の出品時、昇級調査を必ず行って下さい。調査が済んでいない場合は出品券に現在の級を記入し、その上の余白に赤で未調査と明記して下さい。よろしくお願いいたします。(編集部)

— 特別昇段級試験を  
受験された方へ —

※次回、書道芸術762号（10月号）の発送は、10月7日（月）になります。

特別昇段級試験を受験された方は、通知された結果が最新の段級となりますので、必ず段級を確認の上、出品して下さい。

『認定証』発行

「書道芸術」の各部門別に、師範の資格を取得されている方に対して「認定証」を発行しております。

次の要領で、申請してください。

申請料 1部門 1万円

申請書式 はがき大の用紙に次のように記載し、申請料とともに現金書留でお送りください。

認定証申請書

- 1 郵便番号
- 2 住所・電話番号
- 3 支部、支部名
- 4 申請部門（漢・かな・漢字条幅・かな条幅・ペン字）
- 5 師範資格取得年月日

認定証発行の年月日は師範資格取得年月日となります。

受付日より1ヶ月程度で認定証をお送りいたします。

# 特別昇段級試験

一、しめきり日 9月15日(日)

秋季は、作品募集を次のようにいたします。

- 漢字 一種、二種、三種
- かな 一種、二種
- 漢字条幅 一種、二種
- かな条幅 一種、二種、三種
- ペン字 一種、二種、三種
- かな、漢字条幅の三種は、春季募集となります。

## 二、応募資格

・一人で幾つの部にも応募できる。

・第一種 現段級が特級〜10級、新規

・第二種 現段級が初段〜3級

・第三種 (4〜10級の方は受験できない) 現段級が準師範〜秀級 (優級以下の方は受験できない)

三、課題文字と用紙 (創作文字は新旧字体どちらでも可)

※漢字・かな・漢字条幅・かな条幅の臨書作品は、49〜54ページの写真掲載の中から〔指定文字数〕を臨書。

漢字部 半紙11たて長に使用

第一種 (1枚) 楷 臨書 高貞碑 (掲載部分から5文字を臨書)

第二種 (楷・行 計2枚)

楷 創作 山晴花更繁 (王安石) (山晴れて花更に繁し)

行 臨書 集字聖教序 (掲載部分から12文字を臨書)

第三種 (楷・行・草 計3枚) 楷 臨書 雁塔聖教序 (掲載部分から細字24文字を臨書)

行 創作 歸來向人説 疑是武陵原 (王安石) (衆人向いて疑、疑うは武陵原)

草 臨書 十七帖 (掲載部分から6文字を臨書)

かな部 半紙11たて長に使用

・料紙可、各臨書は料紙を裁断して貼り付け可。

・かな部創作・臨書はともに落款は印のみ可。

・かな・漢字の変更自由。

第一種 (臨 1枚) 高野切第三種 臨書 関戸本古今集 (半紙1枚に2首を臨書)

第二種 (臨・創 計2枚) 臨書 関戸本古今集 (半紙1枚に全てを臨書)

創作 芦べより雲居をさして行く雁のいや遠さがる我が身かなし (よみ人しらす)

漢字条幅部 小画仙紙半切11たて長に使用

第一種 (1枚) (行または楷) 創作 先師有遺訓 (陶潜) (先師に遺訓有り)

第二種 (楷・行 計2枚) 楷 臨書 顔勤礼碑 (掲載部分から14文字を臨書)

行 創作 交流四水抱城斜

散作千溪通萬家 (西元) (交も流るる四水は城を抱いて斜めに、散じて千溪と作って万家に遍し)

かな条幅部 創作は小画仙紙半切をたて長に使用(料紙可) 臨書は半紙を横長に使用

・かな条幅部の創作・臨書の落款は印のみ可。

・創作は、かな・漢字の変更自由。

第一種 (創 1枚) 創作 波の間や小貝にまじる萩の塵 (松尾芭蕉)

第二種 (創 計2枚) 創作 栗食むや若く哀しき背を曲げて (石田波郷)

創作 窓近きいささ群竹風吹けば 秋におどろく夏の夜の夢 (藤原公経)

第三種 (臨・創 計3枚) 臨書 関戸本古今集 (半紙横1枚に全てを臨書)

創作 あたままで目でかためたる鱧輪裁 (中村史邦)

創作 山風はたかねの松に声やみて 夕の雲を谷にしつまる (足利尊氏)

ペン字部 はがきの大きさは横×10(白)縦×11(黒)に使用

緑は高低の樹に映じ 紅は遠近の花に迷う 林間に鶏犬を見る 直ちに擬す是れ仙家 元好問の詩を ○○書

第一種 楷書 (1枚)

第二種 楷・行 (計2枚)

第三種 楷・行・草 (計3枚)

## 四、名前のかき方

◎どの部も落款を入れる。 創作は○○書、臨書は○○臨と書く。 ただし、かな部・かな条幅部の創作・臨書いずれも印のみ可。

## 五、受験料

第一種 一、五〇〇円

第二種 三、〇〇〇円

第三種 四、五〇〇円

◇納入は昇段級試験用振替口座、または現金書留をお願いします。

## 六、審査結果と昇級

成績に応じて、次の通り昇段級させる。

第一種は、最高秀級まで

第二種は、最高二段まで

第三種は、最高師範まで

## 七、応募手続

1 出品票はバーコード出品券を使用し、9月号(76号)の段級を記入(昇試出品券を貼付欄に貼る)。

一種は作品の右下に貼る。二種・三種は1番上のみ、作品の右下に貼る。

2 作品2枚以上ある時は、右上をホチキスまたはのりとする。

3 団体支部の方へは事務所から応募書類一式を送付する。

4 個人で受験希望の方は、はがきで申し込む。

受験申込み締切は8月22日(申) 申し込み期限を過ぎましたが、希望者は大至急申し込みを。 申し込み先 千101-0031 千代田区東神田1-16-7 東神田プラザビル3階 公益財団法人 書道芸術院 書道芸術編集部特別昇段級試験係 応募書類は9月1日以後に整理発送。送付された応募書類に必要事項記入の上、作品に添え応募する。

●篆刻

【10月15日締めきり】

〈出品規定〉

- ① 摹刻 (ア) 課題による語句 (イ) 原印自由 (出品の際、原印) のコピー添付
- ② 創作 語句自由

- 印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横 $\frac{1}{2}$ の大きさに切ったものも可。
- 応募は①か②のどちらかとする。

9月号 篆刻課題

〈原印コピー〉

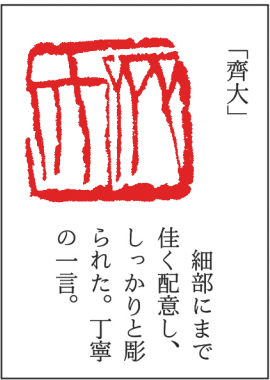


◎出品方法

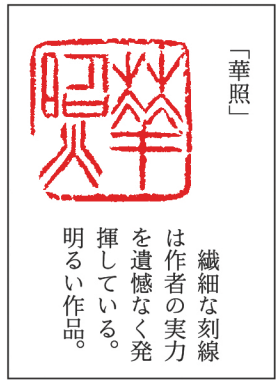
用紙の右側に押印し、左側に印影の釈文を明記、並びに落款(氏号)を入れる。

759号篆刻優秀作品

篆刻特選 平塚由香



創作特選 藤井龍仙



◎篆刻部総評

猛暑の中、作品製作に敬意を払います。全体に真摯な作品が多く特に創作の部には努力作が目につきました。さらに精進下さい。(大峰評)

選評 後藤大峰

(篆刻)		(創作)	
特選	秀作(50音應)	特選	秀作(50音應)
白琉 平塚 由香	秀作 小沢 華仙	粹仙 藤井 龍仙	秀作 加藤 万丈
大雲 片岡 豪峰	蒼原 庄司 櫻空	石心 成田 能喜	生大 中島 義則
大雲 鷺山 美梢	石心 成田 能喜	佳作 片岡 豪峰	やま 橋本 清麗
入選(50音應)	八街 新村 翠芳	佳作(50音應)	唯一 逢沢 唯一
(選外1名氏名略)			秀惠 阿部 雅悠
			石心 伊藤 祥花
			篠田 華所
			入選(50音應)
			遊雲 赤星 文庵
			遊水 荒川 裕泉
			香書 須賀澤 一起
			趙雲 吉田 恵弦
			(選外なし)

今月の注目作

阿部雅悠



◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区  
東神田1-16-7  
東神田プラザビル3階

公益財団法人書道芸術院

電話(03)3862-1954  
FAX(03)3862-1957

ご連絡等は月曜日〜金曜日 10時〜16時の間にお願いいたします。(土日祝日は休み)

送料

1か月の購読部数か  
1部〜9部までの1回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円

10部以上は送料免除

令和六年八月二十五日印刷  
令和六年九月一日発行

定価 1部 七五〇円

編集兼 下谷洋子  
発行人

データ処理 株式会社リンクス  
印刷 小沢写真印刷株式会社

発行所 公益財団法人書道芸術院

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7  
東神田プラザビル3階  
電話(03)3862-1954  
FAX(03)3862-1957

振替 00150141135058  
http://www.shindou.or.jp/shogei/